電気を確実にお届けするために

現場リポート

「電気をお客さまに確実にお届けする」それが私たちの「使命」です。

富山新港火力発電所

全４基を合わせた総出力は、北陸電力管内の火力発電所の中で最大となる富山新港火力発電所。内部の温度が1300℃以上になるボイラーや、約560℃の蒸気で回転するタービン。電気の需要が多くなる夏場には、全4基がフル稼働し、建屋内の室温は 50℃まで上がります。その中を24時間体制で監視し、1日6回巡視点検を行う発電環境課。タービン各部の圧力、温度、そしてタービンの回転に異常がないかを確認します。

厳しい環境での巡視点検も、緊張感と集中力でわずかな変化を決して見逃さない。

建屋内は会話が聞こえないほど大きな機械音が響きわたるため、聴診棒を使い内部の音を聴き取って確認します。したたり落ちる汗を気にも留めず、伝わってくる音に全神経を傾け、わずかな変化も決して見逃さないという信念で取り組みます。

「トラブルには、必ず兆候があります。どんな環境下でもそのわずかな変化に気づき、トラブルを未然に防いでいかなければなりません」その言葉の裏には、火力発電が電力供給の主力として、安定した電気を届けたい、という強い使命感が込められています。

中央給電指令所

刻々と変化する電気の消費量に応じて各発電所の発電量を調整し、また送電系統に故障や異常がないかを監視する中央給電指令所。大動脈ともいえる主要送電網を表示した巨大な電力系統監視盤や電力使用状況モニター、雷レーダー、天気図など数々のデータを映すモニターに常に目を注いでいます。

電気は貯めておくことができないため、24時間、3交替で日夜電力をコントロールします。電気の消費量を予測し、発電計画を立てますが、突然の気象や気温の変化により電力の消費量が予想を上回る場合もあります。

刻々と変化する電気の消費量に応じて、徹底したリスク管理で安定して電気をお届けする。

判断する際に重要なのは、不測の事態が発生した場合、どのように対応するのかを常に考えておくことです。電力の消費量が予想を上回ったら、急に雨が降り出したら、発電所がトラブルで停止したら…と自問自答を繰り返し、発生する事象に臨機応変に対応できるよう常にリスク管理を徹底します。いかに効率よく、安定した品質の高い電気をお届けするかが中央給電指令所に課せられた使命です。

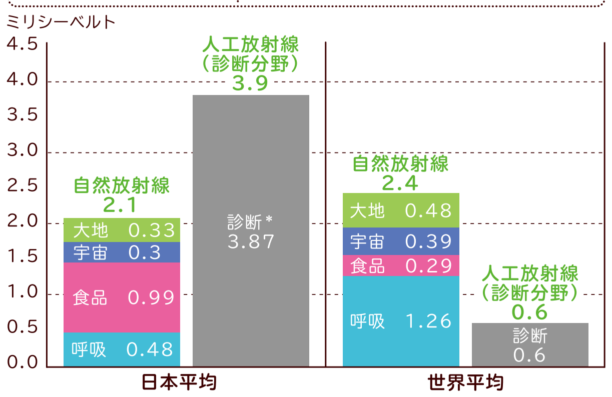
■ 当社ホームページ「灯りの向こう」では、他にも現場リポートを掲載しています。
http://www.rikuden.co.jp/akarinomukou/

暮らしの中の放射線のこと。 わかりやすくお答えします

私たちは、普段から放射線を受けているって本当ですか。

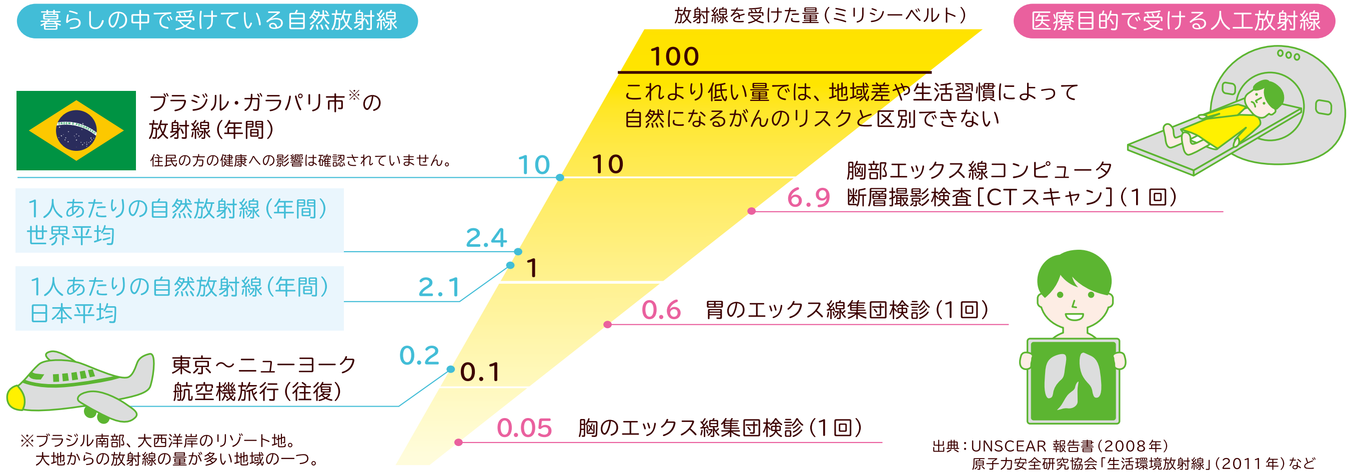
地球上に暮らす私たちは太古の昔から、自然界のさまざまなものから放射線を受けています。

目には見えませんが地球には絶えず宇宙から放射線が降り注いでおり、大地からも、食べ物からも、さらに呼吸をすることからも自然放射線を受けています。また、医療に利用されている人工放射線は、日本では広く普及していることから、世界と比べてその割合は大きくなっています。



＊日本のデータには、歯科検診、核医学検診等も含む。
出典：日本平均：原子力安全研究協会「生活環境放射線」(2011 年)、
世界平均：UNSCEAR 報告書（2008 年）より作成

日常生活でいろいろな放射線を受けています。



※ブラジル南部、大西洋岸のリゾート地。
大地からの放射線の量が多い地域の一つ。

出典：UNSCEAR 報告書（2008 年）
原子力安全研究協会「生活環境放射線」（2011 年）など

自然放射線と人工放射線の性質に変わりはなく、受ける放射線の量が同じ場合、人体への影響は同じです。

シーベルト：放射線を受けたときの人体への影響を表す単位。（1ミリシーベルト＝1/1000 シーベルト）

■ 当社ホームページ「放射線のこと」では、他にも放射線に関してわかりやすくご紹介しています。
http://www.rikuden.co.jp/housyasennokoto/